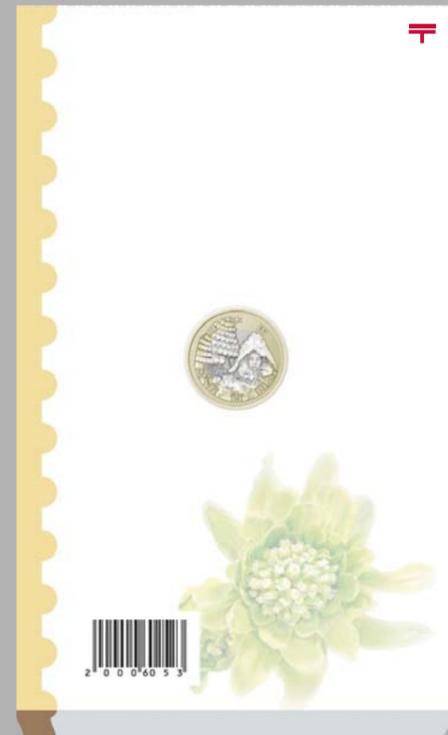


# 地方自治法施行 60 周年記念シリーズ 秋田県

●ケース表イメージ



●ケース裏イメージ



●内側（三つ折り）イメージ



●表紙イメージ



## 秋田県

秋田県は東北地方の北西部に位置し、北は白神山地、東は奥羽山脈が連なり、西は日本海に面しています。天然資源にも恵まれ、県木である秋田杉は良質の杉として有名です。また、なまはげ、竿灯、かまくらなどの伝統行事が親しまれています。

**秋田県章**  
秋田の「ア」を国案化したもので、県の発展するすがたを表しています。昭和34年、公募によって決められました。

**秋田県の鳥（やまどり）**  
キジ科の鳥で、おとくに県内の内陸部の山地にすんでいます。昭和39年、公募によって決められました。

**秋田県の花（ふきのとう）**  
昭和29年、NHKが全国から「郷土の花」を募集したことがきっかけで、秋田の花に選ばれました。別名「パンケ」とも呼ばれています。

**500円バイカラー・クラッド貨幣**

バイカラー・クラッド貨幣とは、2種類の異なる金属を組み合わせた「バイカラー」技術と、金銀銅を異なる種類の金属板で挟み込んだ「クラッド」技術を組み合わせたものです。

（秋田県）表面「白瀬島と竿燈」

○秋田県出身の探検家である白瀬島の月輪と竿燈をデザインしています。

○白瀬島（西暦1861年～1946年）  
幼少時に病で西遊地帯の夢を、40年かけて実現。明治45年（1912年）1月16日に南極大陸に到着し、4名の隊員とともに南極点を目指すも、食料の不足等から南極点到達を断念。同月28日、最終到達地点（南緯80度05分、西経156度37分）の一端を「大和南極」と命名し、帰国。南極にある「白瀬洞」は彼の名にちなむ。

○竿燈  
毎年8月3日～6日に秋田市において行われる祭り。竿燈全体を傾斜に、連なる竿燈を光景に見て、観、慶、罵などに載せ、創作を祈る。昭和55年に国の重要無形民俗文化財に指定されている。

**500円バイカラー・クラッド貨幣の概要**

（各都道府県共通）

種類	500円
素材	ニッケル・黄銅、白銅及び銅
品位	銅75%、亜鉛12.5%、ニッケル12.5%
重量	7.1g
直径	28.5mm
厚さ	2.0mm
その他特徴	異形孔のキズ、磨損等